

21. 被害地の早期再生手法の開発

(2) シカ被害跡地へのオオバアサガラの導入について

亀谷行雄

〔目的〕

シカ被害地に自生し、食害に強く、被害跡地の早期植生回復に有効であると思われる落葉広葉樹のオオバアサガラをシカ被害跡地へ導入するための効果的方法を見いだす。これまで樹木の利用価値が少ないこともあって、オオバアサガラの増殖方法については、不明な点が多かったので、増殖方法を中心にして試験を行った。

〔方法〕

増殖方法として、挿し木・播種による方法を試みた。挿し木試験については、奥多摩町のシカ被害地に自生しているオオバアサガラの枝を採取し、林業試験場のミストかん水施設内で挿し木試験を行った。バットに用土を入れ、そこに挿し木をし、ミストの中で管理した。挿し穂は、挿し付けまで、水に付けて置いた。挿し穂の長さは20cmとした。播種試験については、オオバアサガラの種子を、2002年10月9日に採取した。シャーレにろ紙を敷き十分な水を与え、その上に種子を置き発芽床として、シャーレごと20、3,500luxの恒温恒湿装置内に入れて行った。発芽観察期間は、およそ20日間とした。種子は、発芽試験を行うまで4の冷蔵庫で保管した。

〔結果〕

オオバアサガラの挿し木試験の結果は、表 - 1のとおりであり、当年枝・1年枝ともに用土に赤玉土を使ったものが活着が良く特に、当年枝の活着が1年枝に比べて良かった。黒土を使った挿し穂の活着が悪かった理由は、土壌の水はけの悪さに原因があったものと思われる。活着した当年枝・1年枝の状態は写真 - 1、2に示した。本試験は、ミスト内での試験結果であるが、挿し木によって活着することがわかった。

播種試験については、2002年10月9日に採取したオオバアサガラの種子の規格を、表 - 2に示した。表 - 3のとおり、発芽率は、80%以上で播種試験では比較的発芽し易い樹種であることがわかった。

以上の挿し木及び播種試験の結果から、ミストかん水施設内でのオオバアサガラの挿し木による増殖は可能であることがわかった。また、オオバアサガラの恒温恒湿装置内での発芽率は、80%以上と高かった。したがって、予め、挿し木・播種によって苗木をつくり、被害跡地に植栽する方法が、確実かつ効率的であることが明らかになった。今後、コスト面を考慮して、直挿し・直播きの方法について検証する必要がある。また、種子採取木周辺の自生地において、種子の発芽・生育がどのように行われたかについては、不明であるため、土壌、地形などの環境条件と種子の発芽・生育との関係についても解明する必要がある。なお、写真 - 3、4に、それぞれオオバアサガラの果穂とシャーレ内での発芽の状況を示した。

表 - 1 オオバアサガラ挿し木の方法と活着率

挿し穂採取日	挿し付け日	挿し付け本数	挿し穂状態	用土の種類	活着率 (%)
2002.6.5	2002.6.12	20	当年枝	黒土	0.05
2002.6.5	2002.6.12	12	1年枝	黒土	0
2002.6.5	2002.6.12	10	1年枝	黒	0
2002.6.11	2002.6.17	30	当年枝	赤玉土	73
2002.6.11	2002.6.17	17	1年枝	赤玉土	58



写真 - 1 活着した当年枝挿し穂



写真 - 2 活着した1年枝挿し穂

表 - 2 オオバアサガラ種子規格

重 量		粒 数	
g/1,000粒	g/リットル	粒数/g	粒数/リットル
28	349	36	12,500

表 - 3 オオバアサガラ発芽率

試験開始日	播種粒数	発芽率 (%)
2002/12/3	25	84
2003/1/7	20	80



写真 - 3 オオバアサガラの果穂



写真 - 4 発芽の状況